学校だより　９月号

相模原市立二本松小学校
2024.8.26　No.6

にほんまつ

「かしこさ」
「やさしさ」
「たくましさ」

松っ子ブログ

「乗り越える力」の根源は・・・

校長　松浦　隆志

夏休みと同時に始まったパリ五輪では、相模原にゆかりのあるアスリートたちが、大活躍しました。金メダルを勝ち取った女子スケートボードの吉沢恋選手は市内の中学生、そして男子サッカーでキャプテンを務め、何度もゴールを決めた山本理仁選手は二本松小学校、内出中学校の OB です。

その中でも私が特に注目していたのは、女子 7 人制ラグビーの内海春菜子選手です。内海選手は、教え子ということもあり、活躍を楽しみにしていました。

相模原市オリンピック・パラリンピック壮行会
左から２人目が　内海春菜子選手

内海選手は、6歳から市内のラグビースクールでラグビーを始め、高校、大学と強豪校へ進学します。しかし大学3年生の時、左膝の前十字靱帯断裂という大けがを負い、一度は競技をやめることを考えたそうです。けれども、手術とリハビリを乗り越えて、卒業後も働きながらラグビーを続ける選択をしました。そして2022年10月に初めてサクラセブンズ（7人制女子日本代表）の一員になりました。しかし、またしても内海選手に試練の波が襲います。パリ五輪を翌年に控えた2023年2月、代表の遠征中に、左膝半月板を損傷するけがをしてしまいます。その影響で11月に行われたパリ五輪のアジア予選には、出場することができませんでした。しかし11ヶ月ものリハビリを乗り越え復帰を果たすと、再び代表の座をつかみとり、パリ五輪出場が決定したのです。

そしてオリンピック本番。開幕から2連敗をしたサクラセブンズですが、その後3連勝をして、オリンピック過去最高位の 9 位の成績をつかむことができました。

何度も困難に襲われながらも、それを「乗り越える力」の根源はどこにあるのか。内海選手はパリ五輪に臨む前のインタビューでは、「プレーできることへの覚悟」と「周りの人への敬意」について話をしていました。

内出中学校区では、キャリア教育の一貫として「乗り越える力」の育成に重点を置いています。何事に対してもねばり強く挑戦していくためには、挑戦することに対して「意味づけ」をすることと、様々な人と「協働」する経験の積み重ねが不可欠であると考えています。2学期にも学校や家庭、地域のあらゆる場面で「乗りこえる力」を育んでいくことができるよう、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

（参考文献　:産経新聞 2024 年 7 月 25 日）